

風土記の丘の花だより³³²

今、そしてこれから見られる植物(2026年8月1日)

このあたりは連日の猛暑ですが、関東の方は大雨だそうです。何もこんなにハッキリ分けなくてもいいのにとおもいます。その中をとって、平均して、どちらも「そこそこ」にしていだきたいものです。とはいえ、こればかりはどうしようもありませんね。あとしばらくは、我慢、我慢



一枚目は何となく暑苦しい花です。そんな言いかたをしたらこの花に失礼ですね。名前はヨウシュヤマゴボウです。

ヨウシュは「洋酒」ではなく、「洋種」のことです。ゴボウと付きますが、ゴボウの仲間ではなく、ヤマゴボウ科という仲間です。草そのものは大型ですが、花は写真のように小さく繊細です。実は毒々しい色で、子どもが色水遊びに使います。でも有毒なので大人の見守りが必要です。



万葉植物園を過ぎて道の舗装が切れるあたりから少し行くと、山側にヤブミヨウガの白い花が咲いています。前の330号で紹介したミヨウガとはずいぶん花の形が違います。それもそのはず、ヤブミヨウガはミヨウガの仲間のショウガ科ではなく、ツユクサ科なのです。ただ、少し薄暗い藪の中に生えることが多いし、葉の形がミヨウガ似にしているので、こんな名前になったのです。名前がよく似たものにハナミヨウガがありますが、それはショウガ科です。ややこしい話ですね。



みなさんよくご存知の「ねこじゃらし」正式にはエノコログサです。でもこの二つ、じつは種類が違います。左の曲がった方がアキノエノコログサ、右のまっすぐの方がエノコログサです。ただ違いは穂の曲がり方ではなく、つぶつぶをよく観察しないと確実なことは言えません。でもまあ一般的に太くて、大きく曲がるのがアキノエノコログサの場合が多いです。ところで、エノコロは「犬ころ」が訛ったものだそうです。



最後は花ではありませんが、葉が美しいので紹介します。アカザです。春にハクモクレンやコブシが咲きますが、その下に毎年何株か出てきてくれます。古い時代に中国から渡来し定着したと考えられています。食用とされ、徒然草にも登場するそうです。放置すると人の背丈をこえるほどに成長しますが、ここでは草刈りがあるので小さなうちに姿が見えなくなります。葉が白く色づくものはシロザと呼ばれます

。松下